

第4回会議 意見まとめ

～災害に向き合う地域（理想状態）について～

1 学習・教育

- ・学校教育と社会教育が繋がり、子どもの考える力を生かすことができる地域であること（マイノリティ問題など学校で考える機会があり、考えたことや感じたことを親など周囲の大人へ発信することで大人の意識が変わる。子どもがいつもと違うことが起きた時や困った時にどう考えてどう行動するかを考えることが、大人も共に考える機会となる。日常から様々な体験をし、普段出会うことができない人々と出会い、色々なことを考えるきっかけとして、サタデースクールは有意義である）(5)
- ・地域課題の学習機会が提供され、問題意識の共有を図っていること (19)
- ・地域課題への理解や解決に向けての学習機会（協議の場等）が設けられ、住民の積極的な参画があること (20)
- ・地域行事が定期的で開催され、住民の参加率が高い地域 (22)
- ・「在住者を知り相互交流を促進」、「世代間の交流を促進」及び「地域課題をテーマ」とした社会教育事業が活発に実施展開されていること (23)
- ・地域課題をテーマとした社会教育事業が活発に実施展開されていること (23)
- ・短期的な視野だけではなく、長期的な視点をもって社会教育行政の役割を考えることも必要。特に、子どもたちが情報リテラシーや社会的包摂等についての考え方を身に付けておくことは、将来地域の担い手として災害時に有効 (30)
- ・DIG・HUG等、直接的な災害学習だけでなく、社会教育、生涯学習が広く様々な形で行われている地域、あるいはそのような意欲の高い（人が多い）地域 (34)
- ・地域の様々な情報（要避難行動支援者の他、避難所の位置、避難経路、地理的状况＜危険箇所、高低差、河川の氾濫危険度等＞、）を知っている家庭・人が多い地域 (38)
- ・災害発生時に「どのような行動をとるべきか」「地域でどのようなことで困るか」「地域のどのような人たちがどのようなことで困るか」等の知識・体験を持っている人が多い地域 (39)
- ・「災害からいち早く立ち直ることのできる地域」
地域住民だれもが「等しく」、そして「早く」、安全・安心に過ごせるようになること、基本的な生活を「早く」取り戻せること。行政としての地域（札幌市）は、住民が、安全・安心に暮らせるよう、環境を整えたり、制度を準備したりするため、平時も災害時も、その役割はたいへん大きい。市民は、そういう非常時にこそ、行政にちゃんと動いてもらうために、平時から知恵と意見を出しあう必要がある。行政（札幌市）こそ、災害を経験した地域（行政）から学んできてほしい、そしてそれを市民と共有してほしい (41)
- ・「立ち直ることのできる地域」
「立ち直り」ながら、以前とは異なる新しい地域をつくってゆく、ということ (42)
- ・極端な形、凝縮された形で表出してきたものと出会うこと（＝災害時の経験）は、日常を見直す契機（＝学習の機会）になる。非日常（災害）という経験からの学習は、日常を問い直し、日常の中での私たちの目線（人やものや世界をみる見方）や言葉や行動

- を、変えることにもつながる可能性がある(44)
- ・体験を「学習」にするための装置(しかけ)や環境をつくることがとても大きな意味を持ち、これこそが社会教育行政の役割(45)
 - ・体験した時に感じたことや気付いたこと、驚きや戸惑いや感動や後悔を、対象化する(「その体験」について、考えてみる、共有する)ことが無ければ、一時的・個人的なものとして過ぎ去ってしまう(46)
 - ・体験を立ち止まって眺めるきっかけは、いわゆる様々な社会教育活動の中にちりばめられている。言葉や文字、絵や写真、動画・映画、音楽、踊り、芝居など、表現活動は、その一つ。それらを共有する場をしかけていくことができれば、「被災からいち早く立ち直ることのできる地域」につながる(47)
 - ・地域住民が地域の特性(土地、建物、住民等)について理解している(理解に努めている)こと(50)
 - ・災害発生直後の被害について住民同士が(共通理解として)ある程度予測ができる地域(59)
 - ・住民同士が共通の被害拡大(二次災害等)の予測ができる地域(60)
 - ・災害からケーススタディとして学び続けることが重要(70)
 - ・非日常の災害時に備えた地域ごとの啓発活動及び人と人を繋げる活動(88)
 - ・災害について季節や地域特性、家族構成、持病の有無等を踏まえた話し合いや情報収集・交換を行っている地域(89)

※提言※

- ・「災害に向き合う地域」について、社会教育行政の役割を考えると、「①人を育てること」と、人の集まりである「②地域を育てること」の二つの側面からアプローチすることだと思う。①は、「自助」であり、②は「共助」ともいえる。住民の手によって、一人一人の意識と行動を変え、共助が機能するように住民が地域を育てる営みを支援することにこそ社会教育行政の役割であるように思う。(32)
- ・平常時の地域での取り組みの具体的な提案
 - (1) 甚大な災害に見舞われた他の地域の経験から学ぶ場や機会をつくること(成功も、失敗も含めて。行政職員も市民も一緒に)
 - ※「過去の経験」から学ぶことが重要。それを知ることで「今」への見方の幅が広がる
 - (2) 災害を体験した人たちが、何らかの形でその体験を表現し、その表現を共有する場をつくること(48)

(メモ)

2 情報共有・情報リテラシー

- ・ひとりひとりが顔の見える関係ではなくても、**地域住民が所属する(関わる)場にアクセスすれば繋がり合える(助け合える)システム**があること(2)
- ・各団体(専門家)の要になる人や、それを繋ぐ役割の人がいること。**要となる人々が情報を共有し(メーリングリスト、掲示板など)必要な人々に的確な情報を発信できるシステム**があること(3)
- ・困っている人や援助が必要な人や援助のために動ける人を把握し、**必要な場に必要な援助が届くネットワーク、情報共有システム**が構築されていること(6)
- ・自分たちの住んでいる地域の**住民特性やライフスタイル、家族構成、年齢構成、健康状態などを、住民がある程度理解**している地域(10)
- ・住民がある程度の**情報リテラシー**を有し、**公共に配慮する人**が多く住んでいる地域(13)
- ・**地域行事**が定期的で開催され、**住民の参加率**が高い地域(22)
- ・世代間の交流促進や在住者を知り**相互交流を促進する社会教育事業**が活発に実施展開されていること(23)
- ・災害時に必要となる**住民の情報が共有**されている地域(25)
- ・**情報の収集及び提供の仕組み**が構築されている地域(27)
- ・災害時の**対応組織及び住民一人一人の行動や役割が明確**となっていることが大切。但し、組織は災害のためだけに限定したものであれば、活動が次第に停滞してしまうことが懸念される。平素から**日常的に活動している既存の組織**が、この役割を担うように位置づけるのが良い(29)
- ・居住地域周辺の**小(中)学校区程度の範囲における(避難時に)必要と思われる地域の情報**(<公的な避難情報に加えての>即時避難の重要性、避難所の状況、支援物資到着情報、地域の状況など)を**近所づきあいの中で共有**できる地域(「共助」の段階における「地域力」「災害対応力」に繋がる)(36)
- ・「**災害からいち早く立ち直ることのできる地域**」
地域住民だれもが「等しく」、そして「早く」、安全・安心に過ごせるようになること、基本的な生活を「早く」取り戻せること。行政としての地域(札幌市)は、住民が、安全・安心に暮らせるよう、環境を整えたり、制度を準備したりするため、平時も災害時も、その役割はたいへん大きい。**市民**は、そういう非常時にこそ、行政にちゃんと動いてもらうために、**平時から知恵と意見を出しあう**必要がある。**行政(札幌市)**こそ、**災害を経験した地域(行政)から学んできてほしい**、そしてそれを**市民と共有**してほしい(41)
- ・体験した時に感じたことや気付いたこと、驚きや戸惑いや感動や後悔を、対象化する(「その**体験**」について、**考えてみる、共有**する)ことが無ければ、一時的・個人的なものとして過ぎ去ってしまう(46)
- ・地域住民同士が**正確かつ確実に情報共有できる仕組み**があること(51)
- ・地域住民一人ひとりの**情報活用力**が高いこと(54)
- ・地域住民一人ひとりが**正しい情報を的確に捉え適切な行動が行える**こと(63)
- ・リスクコミュニケーションを絶やさないこと(市民同士、行政と市民、専門家と市民などの組み合わせ。専門家と行政の発信メッセージを適切に翻訳し市民に届けることができる**リスクコミュニケーション・科学コミュニケーションの専門家**が必要。リスクコミュニケーションの**専門家と市民の対話**が**非常時の信頼**に繋がる。**社会教育的に実行できる有力な分野の一つ**)(67)

- ・ **情報弱者を作らないための取り組み**（信頼性の高い公的機関のサイトなどの情報に見慣れておく等。孫世代が祖父母世代に教える世代間交流や、子どもたちから一人暮らしの年配の方へ手紙を電子メールやメッセージアプリで行う試みなど）（69）
- ・ **間違った情報の拡散をしない、したとしても訂正機能が働く、情報リテラシーの高い地域**(71)
- ・ **対話や情報交換を絶やさない地域**(72)
- ・ **インターネットを介した情報インフラ**が整備されている地域（75）
- ・ 日頃から**主要機関と繋がり情報共有**をし、緊急時に**リーダーシップをとれる人材や団体の存在**が必要（現代では町内会の機能は弱い）（81）
- ・ 地域の中の**顔が見えるつながり**をつくること（札幌は人口も多く、転勤族は常に出入りするため深い付き合いは難しいかもしれない。それでも、どういう人がどういう家族構成で暮らしているのか、ある程度みんな把握しておくことが大事。今の時代、SNSで友人たちとつながり支えあえることは、寂しさも紛れ心強くもあり、とても便利なこと。情報収集などには大変重宝するが、**本当に困ったとき助け合えるのは遠くの友人ではなく近くの他人**。お互い顔を知っているだけで、いざというとき「水を分けてほしい」、「薬を分けてほしい」などのお願いがしやすくなる）（85）
- ・ 地域のいろんな人たちが**自由に話し合える「空間」をみんなで作る**こと（一部の人たちから多くの人たちへ。老人ホームや保育園、病院など地域の施設の確認、ひとり暮らしや母子家庭の把握、外国人観光客の対応など。他人へプラスの関心を持ち合える空気）（86）
- ・ 災害について**季節や地域特性、家族構成、持病の有無等を踏まえた話し合いや情報収集・交換**を行っている地域(89)

※提言※

- ・ **平常時の地域での取り組み**の具体的な提案
 - (1) 甚大な災害に見舞われた他の地域の**経験から学ぶ場や機会**をつくること（成功も、失敗も含めて。行政職員も市民も一緒に）
 - ※「過去の経験」から学ぶことが重要。それを知ることで「今」への見方の幅が広がる
 - (2) 災害を体験した人たちが、何らかの形でその**体験を表現し、その表現を共有する場**をつくること(48)

(メモ)

3 地域コミュニティ／連携・協働

- ・行政や学校、地域の各分野に特化したNPOやコミュニティが連動している地域。地域住民が手の届く範囲(距離)の様々なNPOやコミュニティ、専門家と顔の見える関係で繋がり合い、それぞれの強みを把握したり助けあったりできる地域(1)
- ・ひとりひとりが顔の見える関係ではなくても、地域住民が所属する(関わる)場にアクセスすれば繋がり合える(助け合える)システムがあること(2)
- ・地域の強みや課題を網羅できるプラットフォームのような場がある地域(地域の住民やNPO・団体の関係性が希薄なため、地域の団体を把握して繋がりを作ること)(4)
- ・学校教育と社会教育が繋がり、子どもの考える力を生かすことができる地域であること(マイノリティ問題など学校で考える機会があり、考えたことや感じたことを親など周囲の大人へ発信することで大人の意識が変わる。子どもがいつもと違うことが起きた時や困った時にどう考えてどう行動するかを考えることが、大人も共に考える機会となる。日常から様々な体験をし、普段出会うことができない人々と出会い、色々なことを考えるきっかけとして、サタデースクールは有意義である)(5)
- ・困っている人や援助が必要な人や援助のために動ける人を把握し、必要な場に必要な援助が届くネットワーク、情報共有システムが構築されていること(6)
- ・身近に避難場所や待機場所があり、その場所が物資の支給や場所の提供にとどまらず、集まった人々でこれからのことを考えたり助け合ったりできる場となること(7)
- ・自分たちの住んでいる地域の住民特性やライフスタイル、家族構成、年齢構成、健康状態などを、住民がある程度理解している地域(10)
- ・住民が日常的に気軽に挨拶し合い、適度なコミュニケーションが取れて、日常的な困り事でも相談できる人たちがいる地域(11)
- ・住む人たちの緩やかな繋がりができていて、まわりから疎外された人がいない地域(12)
- ・住民がある程度の情報リテラシーを有し、公共に配慮する人が多く住んでいる地域(13)
- ・道内外の複数の地域と友好関係を築き、困ったときには協力・助け合いを行える地域(14)
- ・近所の人たちの暮らしぶり(ライフスタイル、健康状態、生活の価値観)を理解し合っている地域(16)
- ・近隣に自分のことをよく知っていて、いざというときには頼れる人たちがいる地域(17)
- ・地域に存在する組織の横断的な会議が定期的で開催され、連携・協力できるネットワークがつくられていること(21)
- ・地域行事が定期的で開催され、住民の参加率が高い地域(22)
- ・世代間の交流促進や在住者を知り相互交流を促進する社会教育事業が活発に実施展開されていること(23)
- ・短期的な視野だけではなく、長期的な視点をもって社会教育行政の役割を考えることも必要。特に、子どもたちが情報リテラシーや社会的包摂等についての考え方を身に付けておくことは、将来地域の担い手として災害時に有効(30)
- ・災害時には、地域の力だけで危機状態を脱することは至難。地域外から、必要な支援や協力を迅速に得ることが災害からの立ち直りに重要ではないか。そのためにも、閉ざされた地域ではなく、平素から開かれた地域を目指すことも大切ではないか。他地域との交流促進やつながりを深める取組も必要ではないか。また、若年層は、地縁を

- 超えた多様なつながりを持っている。こうしたネットワークも災害時の重要なツールとして活用できる(31)
- ・「顔の見える関係づくり」や「ご近所づきあい」など様々な形を通じ繋がり、**地域住民全員が顔の見える**地域(33)
 - ・避難(必要)時に、近所の避難行動要支援者(高齢者、障がい者、小さな子どもがいる家庭、外国人等のような状況の人が避難時に困っているかを気づくことが重要)を含む**避難弱者の存在**にいち早く気づき、声かけやお手伝いのできる人が多く暮らしている地域(「**共助**」の段階における「**地域力**」「**災害対応力**」に繋がる)(35)
 - ・居住地域周辺の小(中)学校区程度の範囲における(避難時に)必要と思われる**地域の情報**(＜公的な避難情報に加えての＞即時避難の重要性、避難所の状況、支援物資到着情報、地域の状況など)を**近所づきあいの中で共有**できる地域(「**共助**」の段階における「**地域力**」「**災害対応力**」に繋がる)(36)
 - ・地域**住民同士の交流**が活発であること(52)
 - ・災害時の自治をスムーズに行うため地域に**自主防災組織等の地域内組織(町内会)**があり機能していること(町内会等も同様の効果が期待)(53)
 - ・行政に精通し行政との**繋がり**を密に行っていること(56)
 - ・札幌(大都市)特有の**プライバシー意識の高さに対応した人間関係**が構築できていること(57)
 - ・**災害発生直後の被害**について住民同士が(**共通理解として**)ある程度**予測**ができる地域(59)
 - ・住民同士が**共通の被害拡大(二次災害等)の予測**ができる地域(4)(60)
 - ・住民同士が**お互い助け合い避難**できること(61)
 - ・行政の援助を効率よく**利用**できること(65)
 - ・対話や情報交換を絶やさない地域(72)
 - ・弱い立場にある人を常に**気に掛ける余裕**のある地域(74)
 - ・学校が地域の**防災対策や対応を知る**こと(地域の施設設備、居住する住民等)。**町内会組織と顔見知り**になることが大切(78)
 - ・学校が避難場所として開設になった場合の**よりどころは町内会の動き**。心強いのは実際の動きや避難者の調整に関しては**地域性をよくわかっている住民の対応**(79)
 - ・地域社会から**取り残される人が出ない多様な地域コミュニティ**(福祉施設、学校、行政機関、民生・児童委員、市民活動団体など)の繋がり(80)
 - ・日頃から**主要機関と繋がり情報共有**をし、緊急時に**リーダーシップをとれる人材や団体の存在**が必要(現代では町内会の機能は弱い)(81)
 - ・サタデースクール事業など**既存の資源の有効活用**、地域住民と関係機関をつなぐ**社会協議会の役割の見直し、地域福祉コーディネーターの育成と増員**を行うこと(82)
 - ・地域との**繋がり**が薄く、**情報が乏しい人達**が**取り残されない**ように地域の人たちが声を掛け合える**顔の見える関係性**が構築されている地域(人との関わりがなく情報に乏しい人、身体不自由で単独で避難が困難な人、共働きやひとり親世帯で自宅に残されている子ども、精神疾患により避難所など多くの人が集う場所に馴染めない人、発達障害などにより緊急時の状況に順応できない子ども達など)(84)
 - ・地域の中の**顔が見えるつながり**をつくること(札幌は人口も多く、通勤族は常に出入りするため深い付き合いは難しいかもしれない。それでも、どういう人がどういう家族構成で暮らしているのか、ある程度みんな把握しておくことが大事。今の時代、SNSで友人たちとつながり支えあえることは、寂しさも紛れ心強くもあり、とても

- 便利なこと。情報収集などには大変重宝するが、**本当に困ったとき助け合えるのは遠くの友人ではなく近くの他人**。お互い顔を知っているだけで、いざというとき「水を分けてほしい」、「薬を分けてほしい」などのお願いがしやすくなる) (85)
- ・地域のいろんな人たちが**自由に話し合える「空間」をみんなで作る**こと(一部の人たちから多くの人たちへ。老人ホームや保育園、病院など地域の施設の確認、ひとり暮らしや母子家庭の把握、外国人観光客の対応など。他人へプラスの関心を持ち合える空気) (86)
 - ・**知らない人にも挨拶ができる地域づくり**を行うこと(都会は人とかかわるのが苦手と感じている人も多いが、そんな人が「ここ」にいるという認識だけでも違う。一番怖いことは他人に無関心になること。かかわろうとしない人を切り捨てるのではなく、見守る意識が必要) (87)
 - ・非日常の災害時に備えた**地域ごとの啓発活動及び人と人を繋げる活動** (88)
 - ・災害について**季節や地域特性、家族構成、持病の有無等を踏まえた話し合いや情報収集・交換**を行っている地域 (89)
 - ・長期の避難所暮らしにおける必要物品や食事の面、集団生活のルール、医療と健康維持、ペットの世話など、**常に話し合い、協力し合って準備**してきた地域(**行動が早く、自信を持ってみんなで励まし合いながら克服**できる) (90)

※提言※

- ・「**災害に向き合う地域**」について、社会教育行政の役割を考えると、「**①人を育てること**」と、人の集まりである「**②地域を育てること**」の**二つの側面からアプローチ**することだと思う。**①は、「自助」であり、②は「共助」ともいえる**。住民の手によって、**一人一人の意識と行動を変え、共助が機能するように住民が地域を育てる営みを支援することこそ社会教育行政の役割**であるように思う。(32)
- ・**平常時の地域での取り組みの具体的な提案**
 - (1) 甚大な災害に見舞われた他の地域の**経験から学ぶ場や機会**をつくること(成功も、失敗も含めて。行政職員も市民も一緒に)
 - ※「過去の経験」から学ぶことが重要。それを知ることによって「今」への見方の幅が広がる
 - (2) 災害を体験した人たちが、何らかの形でその**体験を表現し、その表現を共有する場**をつくること(48)

(メモ)

4 リーダー・担い手

- ・各団体(専門家)の要になる人や、それを繋ぐ役割の人がいること。要となる人々が情報を共有し(メーリングリスト、掲示板など)必要な人々に的確な情報を発信できるシステムがあること(3)
- ・被害を受けた近隣の人たちの精神的支柱になれるようなリーダーが誕生する地域(18)
- ・短期的な視野だけではなく、長期的な視点をもって社会教育行政の役割を考えることも必要。特に、子どもたちが情報リテラシーや社会的包摂等についての考え方を身に付けておくことは、将来地域の担い手として災害時に有効(30)
- ・日頃から主要機関と繋がり情報共有をし、緊急時にリーダーシップをとれる人材や団体の存在が必要(現代では町内会の機能は弱い)(81)
- ・サタデースクール事業など現存の資源の有効活用、地域住民と関係機関をつなぐ社会協議会の役割の見直し、地域福祉コーディネーターの育成と増員を行うこと(82)
- ・平常時から防災意識を持ち、緊急時にリーダーシップをとれる人材や団体が存在する地域(83)

(メモ)

5 防災活動・被災時の活動

- ・ひとりひとりが顔の見える関係ではなくても、**地域住民が所属する(関わる)場にアクセスすれば繋がり合える(助け合える)システム**があること(2)
- ・困っている人や援助が必要な人や援助のために動ける人を把握し、**必要な場に必要の援助が届くネットワーク、情報共有システム**が構築されていること(6)
- ・身近に避難場所や待機場所があり、その場所が物資の支給や場所の提供にとどまらず、**集まった人々でこれからのことを考えたり助け合ったりできる場**となること(7)
- ・**地域災害の知識**を持って模擬体験や避難訓練を重ねている地域(9)
- ・**住民が慌てず、迅速に必要な行動(避難、声掛け、協力、助け合い etc.)**をとれて、**それぞれの役割**を果たせる地域(15)
- ・災害時に**中心となって対応する組織が明確**となっている地域(24)
- ・災害時の**住民一人一人の行動や役割が明確**となっている地域(26)
- ・**自助、共助、公助についての役割分担が明確で住民が理解**している地域(28)
- ・**災害時の対応組織及び住民一人一人の行動や役割が明確**となっていることが大切。但し、組織は災害のためだけに限定したものであれば、活動が次第に停滞してしまうことが懸念される。平素から**日常的に活動**している既存の組織が、この役割を担うように位置づけるのが良い(29)
- ・DIG・HUG等、直接的な災害学習だけでなく、**社会教育、生涯学習が広く様々な形で**行われている地域、あるいは**そのような意欲の高い(人が多い)**地域(34)
- ・お互いに「**自助**」では**賅い切れず困っていることを、補完し合う**ことができる(例えば、大規模停電時には水の運搬、充電<発電機、通電している家庭の人が通電していない家庭の人の携帯などの充電等>)地域(「**共助**」の段階における「**地域力**」「**災害対応力**」に繋がる)(37)
- ・「**災害が発生した地域で起こる問題**」
日常において生じている問題が、極端な形で現れたもの、より凝縮された形で現れたもの、とも、とらえることができる。体が不自由だったり、避難放送が聞き取れなかったり、日本語が通じなかったり、避難所に行っても安心できなかったりといった具合に。もし、平時に、体が不自由であっても社会生活を楽しんでいたり、耳が聞こえない人も「普通に」「あたりまえに」地域の中で生活していたり、日本語を学ぶ機会があったり、わかりやすい日本語(ふりがななど)や多言語使用が日常的にあったり**災害時(非日常)の問題は**一定程度軽減されるかもしれない。安全・安心して過ごせる避難所にするためには、災害が起きたからといって急にできるわけではなく、やはり**災害以前に実践**されていることが生きてくる(43)
- ・自主防災組織等による**防災訓練**(49)
- ・災害時の自治をスムーズに行うため地域に**自主防災組織等の地域内組織(町内会)があり機能**していること(町内会等も同様の効果が期待)(53)
- ・**災害について準備**されていること(58)
- ・**災害発生直後の被害**について住民同士が(**共通理解として**)ある程度**予測**ができる地域(59)
- ・住民同士が**共通の被害拡大(二次災害等)の予測**ができる地域(60)
- ・住民同士がお互い**助け合い避難**できること(61)
- ・**避難(所)の生活(自治)がスムーズ**に行えること(62)
- ・**プライバシーに十分配慮した避難(所)生活**が行えること(66)

- ・非日常の災害時に備えた地域ごとの啓発活動及び人と人を繋げる活動(88)
- ・災害について季節や地域特性、家族構成、持病の有無等を踏まえた話し合いや情報収集・交換を行っている地域(89)

(メモ)

6 多様性と社会的包摂

- ・ ソーシャルワークが機能すること(8)
- ・ 地域住民一人ひとりが多様性について理解し、多様な人々への対応能力が高いこと(55)
- ・ 一人ひとりの多様性に対応した避難(所)生活ができること(64)
- ・ あらゆる人間に人権があることを忘れない地域(マイノリティによる選別をしない)(76)
- ・ 「自分の持たない新たな視点を得られる相手」と他人を尊重し合うことができる地域(違う年齢層、所得層等それぞれの立場を想像し、層ごとの対立のない地域)(77)

(メモ)

7 その他

- ・「立ち直ることのできる地域」
「立ち直り」ながら、以前とは異なる新しい地域をつくってゆく、ということ(42)
- ・あらゆる仕組みに冗長性を持つこと(有事の対応に差が出るためギリギリの人数で回さない)(68)
- ・災害時に最大の障害となりうる、不安に駆られた過剰な行動を早期に是正することができる地域(買い占め等)(73)

(メモ)